

HQR010-13

会場:展示ホール7別室1

時間: 5月27日15:30-15:45

## 東京都三鷹市井の頭公園地下における前期更新世テフロクロノロジー

### Early Pleistocene tephrochronological study on the underground geology at the Inokashira Park in Mitaka City, Tokyo

青木 拓<sup>1\*</sup>, 鈴木 毅彦<sup>1</sup>, 村田 昌則<sup>1</sup>, 川島眞一<sup>2</sup>, 川合将文<sup>2</sup>

Taku Aoki<sup>1\*</sup>, Takehiko Suzuki<sup>1</sup>, Masanori Murata<sup>1</sup>, Shinichi Kawashima<sup>2</sup>, Masabumi Kawai<sup>2</sup>

<sup>1</sup>首都大学東京 都市環境学部, <sup>2</sup>東京都土木技術支援・人材育成センター

<sup>1</sup>Tokyo Metropolitan Univ., <sup>2</sup>Tokyo Metropolitan Govt.

関東平野西部に位置する多摩丘陵では第四紀層の上総層群が堆積し、武蔵野台地地下には上総層群相当層の分布が確認されている。本研究では、武蔵野台地に位置する東京都三鷹市牟礼4丁目井の頭公園（標高55.2m）で掘削されたボーリングコアの層相観察とコア中に挟在するテフラ（上位より、MTK-01-MTK-41と命名）の採取、分析および対比を行い、地下地質層序と地質構造について検討した。その結果、三鷹コアに挟在する5枚のテフラが房総半島および多摩丘陵より産出するテフラと対比された。なお、テフラ対比に用いた記載岩石学的特性は、おもに火山ガラスと斑晶鉱物の屈折率測定、EDS分析による火山ガラスの主成分化学組成分析、ICP分析による火山ガラスの微量成分化学組成分析による。

MTK-06（深度142.92-142.99m）とMTK-09（深度149.29-149.34m）は多摩丘陵稲城層より産出する根方-百合ヶ丘テフラ(NG-Yr；鈴木ほか，2008)および読売テフラ(Ym；鈴木ほか，2008)と対比され、MTK-31（深度376.54-376.64m）は上総層群黄和田層より産出するKd24と対比された。MTK-35（深度432.09-432.24m）とMTK-37（深度437.43-437.60m）は、多摩丘陵小山田層より産出する堀之内第一タフ(HU1；高野，1994)および堀之内第二タフ(HU2；高野，1994)と対比された。とくにHU2は上総層群黄和田層より産出する大峰-Kd25テフラ（Omn-Kd25，1.60-1.65Ma；長橋ほか，2000）と対比される。対比されたテフラより地下地質層序について、三鷹コアの深度18.8m-505.0mには上総層群黄和田層相当層が堆積していることを明らかにし、地質構造については関東平野西部で大局的に北東方向に約1度の勾配で傾いていることを認定した。

キーワード:テフロクロノロジー,地下地質,武蔵野台地,前期更新世

Keywords: tephrochronology, underground geology, Musashino Upland, early Pleistocene